

# BACH スクリーンコンサート

2021. 6月

## 6月のテーマ ピアノ協奏曲（ピアノコンチェルト）

バッハの頃のバロック時代は、チェンバロかオルガンで、バロック期にはまだハンマー式のピアノは発展途上で古典派の時代に入ってから今のピアノが完成しています。

### 1、ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」 （38分）

ラフマニノフの4曲あるピアノ協奏曲の中でも、さらにはピアノ協奏曲というジャンルにおいても、最も人気のある最高傑作の一つです。ラフマニノフ本人が演奏する録音も存在します。

ラフマニノフは、作曲者であるとともに、45歳頃から活動的なコンサート・ピアニストとして演奏活動をし、その後の作曲はパガニーニによる狂詩曲だけでした。作曲とピアノ演奏の両面で大きな成功を収めた音楽家です。

映画「逢いびき」「旅愁」「7年目の浮気」「遠い日の家族」で使われています。特に「逢いびき」では、全編に渡りこの曲が流れ、切なさや感動を盛り上げています。

#### 第1楽章：

冒頭独奏ピアノが「ダーン、ダーン」と遠い鐘の響きを思わせる荘重な和音を繰り返しながら始まります。続いて、弦楽器全体で暗く強い第1主題が演奏され、2つの音が揺らぐようなメロディで弦楽器の厚い響きを堪能できる部分です。これが大きく盛り上がった後、第2主題がヴィオラに導かれてピアノに出ます。その後、ピアノはほとんど休む間もなく、華麗なテクニックを披露していきます。オーケストラと一体になって激情的なダイナミズムを作りながら進んでいきます。

#### 第2楽章

ラフマニノフ一流の叙情詩的な味わいが最高に発揮され楽章です。弱音の弦楽器とピアノ、木管楽器が美しく絡みながら進み、中間部ではファゴットの高音とピアノとが美しく絡み合います。

#### 第3楽章

とてもドラマチックな楽章です。行進曲風に始まった後、ピアノが派手に動き回り、スケルツォ風の動きのある第1主題を華麗に演奏します。第2主題が全オーケストラでスケール感たっぷりに歌われます。締め部分は、シンバルの音を含む「三三七拍子」のような弾むような感じでオーケストラが力強く「ジャンジャカジャン」と鳴らして終わります



## プラスα

### 2、 チャイコフスキー「ピアノ協奏曲第1番」第1楽章 (22分)

チャイコフスキーはピアノ協奏曲を3曲作曲したが、この第1番が圧倒的に有名です。弦楽器が奏でる雄大な旋律が流れる中、独奏ピアノの力強い和音がホールに響き渡り、序奏部のクライマックスで、グランドピアノとオーケストラが一体化してこの旋律を奏でる時、スケールの大きさを感じさせられます。34歳のときの作品です。

#### 第1楽章

ホルンがリードするファンファーレのようなイントロから始まり、ピアノが鐘のように重い和音を弾き鳴らし、オーケストラをピアノが伴奏しているように力強く響き渡ります。その背後で第一ヴァイオリンとチェロが、主題を奏でる。第1楽章は曲全体の6割を占めスラブ的な壮大で重厚さをもった楽章です。

### 3、 モーツァルト「ピアノ協奏曲第21番」第2楽章 (8分)

この21番は、「ピアノ協奏曲第20番」のわずか1カ月後にモーツァルト自身の演奏会のために作られたものです。モーツァルトは素晴らしいピアニストでもあったので、もちろんピアノはモーツァルト自身が演奏したそうです。

#### 第2楽章

モーツァルトの数ある傑作の中でも屈指の美しいメロディで始まります。

第2楽章が1967年のスウェーデン映画『みじかくも美しく燃え』に使われたため、この映画の原題となった主人公の女性網渡り師の名をとって、近年は『エルヴィラ・マディガン』の愛称で呼ばれることがあるようです。



#### 予告

7月はバイオリン協奏曲を予定しています  
お楽しみに